

平成25年度町内遺跡発掘調査報告書

2015年3月
長野県高森町教育委員会

例 言

- 1 本書は、長野県下伊那郡高森町における各種開発事業に伴う平成25年度町内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国庫補助事業等として高森町（高森町教育委員会事務局社会教育係）が実施した。
- 3 調査遺跡（遺跡記号）は、鐘鐺原B遺跡（KCNB）・天伯遺跡（TNP）・八日市場遺跡（YKI）の3遺跡3地点である。
- 4 調査実施にあたり基準点測量を㈱M2クリエイションに委託した。
- 5 本調査に係る調査組織は次のとおりである。

教 育 長	光沢郁夫
事 務 局 長	壬生照玄
社会教育係長	宮下 誠
社会教育係	岩崎 徹
発掘作業員	小池義人・酒井好剛・菅野賢治・寺澤 誠・鳴海紀彦・榎本宣子・松下梅治
整理作業員	大木島敦子・上沼八重子・平 サク・高島佳奈・榎本宣子
- 6 本調査に係る発掘作業、整理作業については、次の諸氏の指導・助言・協力をいただいた。
市澤英利、松島高根、綿田弘爽
- 7 本書に掲載した平成25年度調査遺跡地図は国土地理院1:50000地形図「飯田」を、各調査遺跡位置図は高森町都市基本計画図1:2500を1:5000に縮小して使用している。
- 8 本報告書では以下の遺構略記号を使用した。土坑—SK、ピット—P
- 9 本報告書に係る資料は、高森町教育委員会が管理し、高森町歴史民俗資料館に保管してある。

目 次

例 言

目 次

平成25年度 調査遺跡地図	1
1 鐘崎原B遺跡	2
2 天伯遺跡	5
3 八日市場遺跡	8
報告書抄録	17

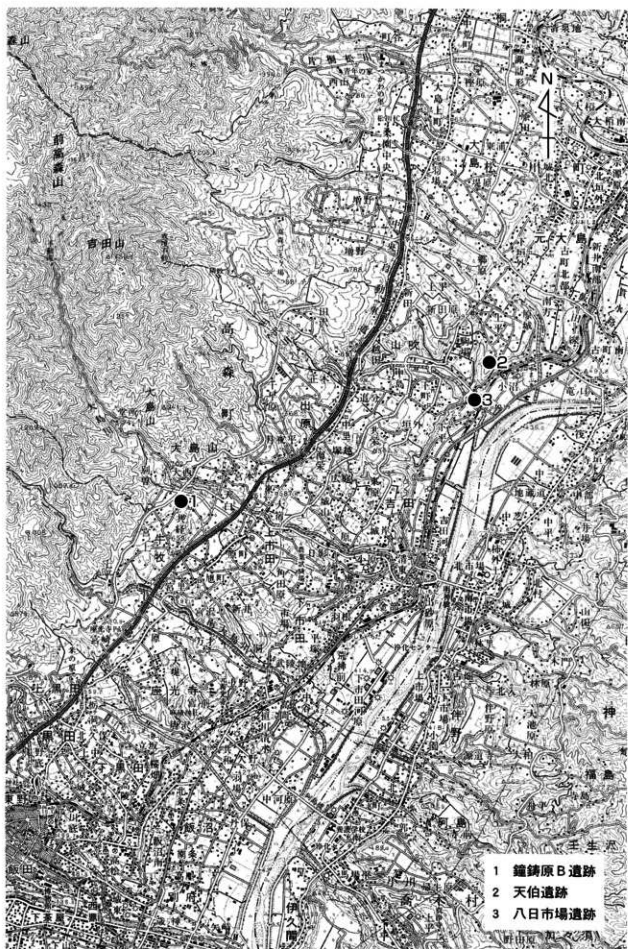


図1 平成25年度調査遺跡位置図 (1:50000)

1 鐘 铸 原 B 遗 迹

(1) 調査の概要

- | | |
|---------|--|
| 1 調査地 | 高森町牛牧1968-5 |
| 2 調査期間 | 平成25年5月13日
～5月31日 |
| 3 調査の目的 | 記録保存調査 |
| 4 調査の要因 | 老人福祉施設建設 |
| 5 開発面積 | 1,837㎡ |
| 6 調査担当者 | 岩崎 徹 |
| 7 調査面積 | 575.0㎡ |
| 8 検出遺構 | 土坑 15 ピット 192 |
| 9 出土遺物 | 土器片20 (縄文中期中葉から後葉)
黒曜石 剥片10、小塊2、打製石斧1、石器3 |

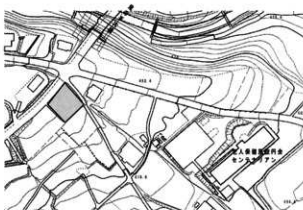


図2 鐘 铸 原 B 遗 迹 调 査 位 置

(2) 遺跡の環境

高森町牛牧地区の西方上段の扇状台地上、標高約680mに位置し、南北300m・東西700mの範囲に広がる。遺跡の時代・種類は縄文前・中・後期、弥生時代後期の集落遺跡であり、古くから知られる町内有数の遺跡である。昭和53年に構造改善事業、平成3年に介護老人保健施設、平成5年に町道改良事業に伴い、発掘調査を実施し、縄文時代中期住居址・土坑群が検出されている。

本調査箇所は遺跡域の北西に位置し、上段道路に接する箇所で、現況は畑となっている。

(3) 調査の経過

平成25年1月18日付け、高森町牛牧2785番地98 社会福祉法人まどか 設立代表者 瀬口達也より土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出書が提出された。当該地は「鐘 铸 原 B 遗 迹」の北西部に位置し、遺構・遺物の存在が予想されるため、工事により破壊される遺跡の記録保存を目的に発掘調査を実施することとした。

平成25年5月13日より発掘調査を開始した。調査は開発箇所のうち、切土となる部分について実施した。作業は重機による表土の掘削後、作業員による遺構検出作業を実施した。この結果、地山までの深度は30cm～50cmで、浅い土坑が15箇所、用途不明の小ピット192箇所が検出された。出土遺物はわずかで、小片の土器片(5cm未満)、黒曜石(剥片、小塊)、打製石斧、石器が出土し、出土物の状況から縄文中期中葉から後葉にかけての遺跡と考えられる。現場調査は、平成25年5月31日に完了した。

(4) 調査の所見

調査箇所は元々果樹園であったため、攪乱も多く、耕作等の影響を強く受けている。遺跡は傾斜地上にあり、遺構面に対して堆積する土等が少なかったうえ、耕作で削平されていたためか、遺構も不明瞭なものが多く、遺跡の状況把握は出土物によるところが多い。

以上調査の結果から縄文中期の遺跡と考えられるが、遺跡の中心は以前の調査状況から鑑みて北側道路以北と予想される。

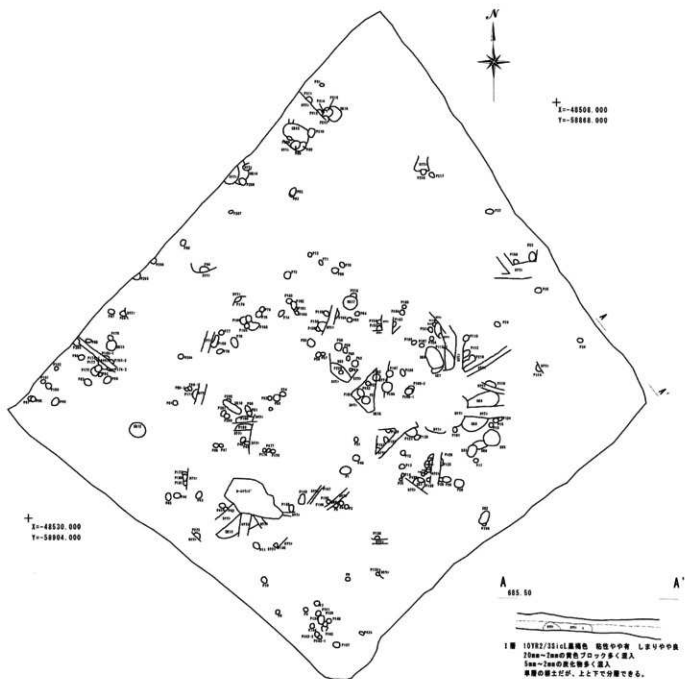


図3 鐘鐺原B遺跡調査全体図(1:200)及び土層断面図(1:100)

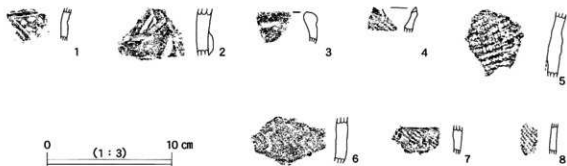


図4 鐘鐺原遺跡出土遺物 (1:SK16, 2:SK6, 3:P212, 4:P103付近, 5:P107付近, 6:P94, 7:SK18付近, 8:SK15)



調査風景



調査風景



調査区全景

2 てんぱく い せき 天伯遺跡

(1) 調査の概要

1 調査地	高森町山吹4728-1
2 調査期間	平成25年6月11日
3 調査の目的	試掘調査
4 調査の要因	携帯電話基地局
5 開発面積	150㎡
6 調査担当者	岩崎 徹
7 調査面積	17.35㎡
8 検出遺構	なし
9 出土遺物	土器片（縄文）



図5 天伯遺跡調査位置図

(2) 遺跡の環境

高森町山吹上平地区、大沢川と寺沢川の間の新規扇状地の先端、標高約500mに位置し、南北250m・東西200mの範囲に広がる。遺跡の時代は縄文・弥生の遺跡とされているが、調査履歴等はなく性格等は明らかではない。遺跡の一部は中世の城跡である「天伯の城」に重なる。

(3) 調査の経過

平成25年5月1日付け、東京都港区東新橋一丁目9番1号 ソフトバンクモバイル株式会社ネットワーク本部 関東技術部 部長 小笠原篤司より土木工事のための埋蔵文化財発掘の届出書が提出された。当該地は「天伯遺跡」の中心に位置し、関係する遺構・遺物の存在が予想されるとともに、今後の開発事業に伴う資料を得ることを目的に試掘調査を実施することとした。

平成25年6月11日より試掘調査を開始した。調査はアンテナ本体部分に東西へ3本のトレンチを掘削する方法で行った。重機による表土の掘削後、作業員による遺構検出作業を実施した。この結果、極わずかな遺物（縄文時代土器片）の出土を確認するのみで遺構は検出されなかった。基本層序図及びトレンチ図を任意の基準点を使用して作成、現地における作業を終了し、工事着手となった。

(4) 調査の所見

地山までの深度は30cm～50cmと浅く、以前は畑や果樹園だったとのことであり、攪乱も多く、耕作等により削平されたものと思われる。また、今回の調査で状況が多少なりとも把握できたので、今後の届出の際の参考とすることができる。

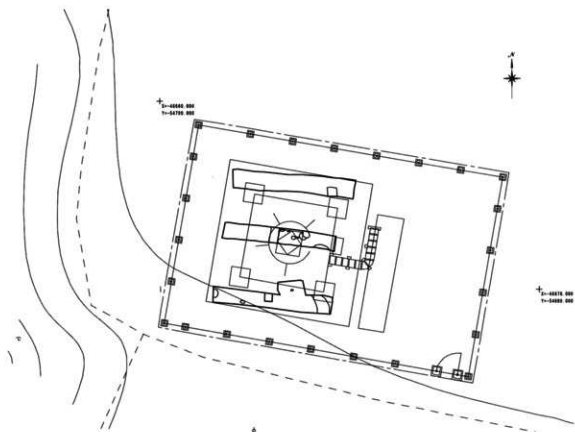


図6 天伯遺跡トレンチ配置図 (1:200)

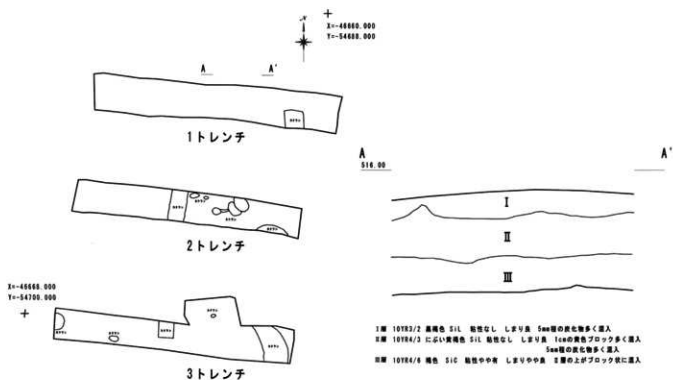


図7 天伯遺跡調査全体図 (1:100) 及び土層断面図 (1:20)



1トレンチ



2トレンチ



3トレンチ

3 ようかいちばいせき 八日市場遺跡

(1) 調査の概要

- | | |
|---------|-------------------------------|
| 1 調査地 | 高森町山吹4212-3他 |
| 2 調査期間 | 平成26年1月20日
～1月27日 |
| 3 調査の目的 | 試掘調査 |
| 4 調査の要因 | 道路改良 |
| 5 開発面積 | 2,400㎡ |
| 6 調査担当者 | 岩崎 徹 |
| 7 調査面積 | 75㎡ |
| 8 検出遺構 | 土坑20 |
| 9 出土遺物 | 土器片(縄文・弥生・平安)
石器(石鏃・打製石斧等) |

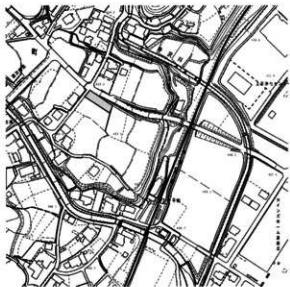


図8 八日市場遺跡調査位置図

(2) 遺跡の環境

高森町山吹駒場地区の標高約460mの新規扇状地上に立地する。南側を天竜川氾濫原、東西を河川で囲まれ、地形的に周囲と隔絶された遺跡である。遺跡の時代は縄文から平安の遺跡とされており、過去の道路工事の際に堅穴住居跡の存在が確認されたと聞かすが、記録はなく性格等は明らかではない。

(3) 調査の経過

平成25年11月25日付け、高森町長 熊谷元尋より土木工事のための埋蔵文化財発掘の通知書が提出された。開発内容は、町道改良であり、その一部が八日市場遺跡にかかることから、関係する遺構・遺物の存在が予想されるため、工事に先立ち試掘調査を実施し、試掘結果に基づいて改めて協議を行うこととした。

平成26年1月20日より試掘調査を開始した。調査は道路拡幅部分に東西へトレンチを掘削する方法で行った。重機による表土の掘削後、作業員による遺構検出作業を実施した。この結果、土坑を20検出。縄文から平安までの土器片、石鏃や打製石斧等の石器が出土した。断面図及びトレンチ図を以前の用地測量で設置した4級基準点を使用して作成し、現地における作業を1月27日に終了した。

(4) 調査の所見

今回の試掘調査では、2箇所の特レンチを設定したところ、調査区西側は周辺の河川の氾濫によると思われる大きな礫が大量に出土し、遺構・遺物とも確認はない。調査区東側では20基の土坑が検出され、出土遺物は弥生後期と奈良・平安の土器片が多く、縄文中期のものも出土した。遺構面までは約1mの深さがあった。予想された住居跡は確認できなかったが、調査状況から遺跡の主体部は調査区より東側と推測され、時代については遺物の状況から弥生後期から奈良・平安に主体のある遺跡と予想される。

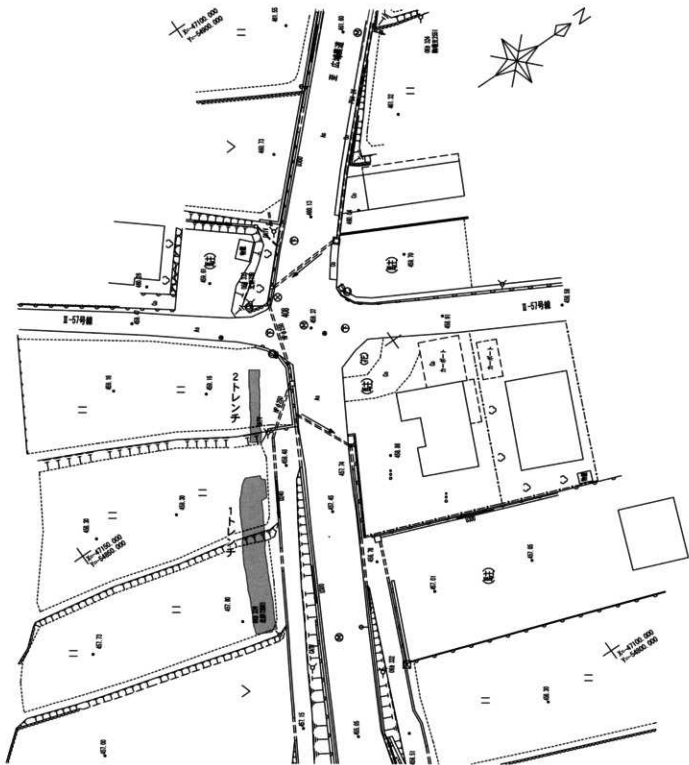
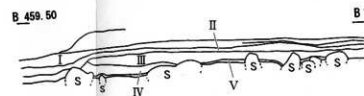
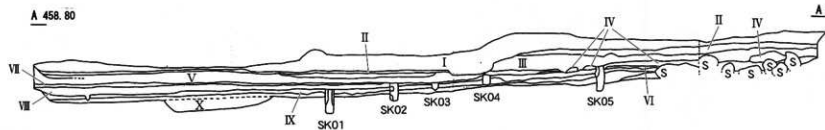
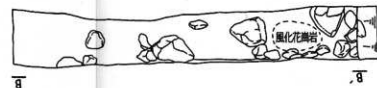
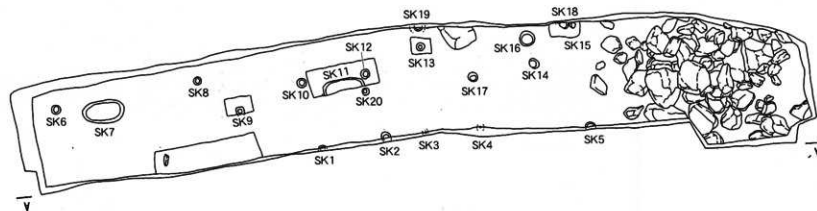


図9 八日市場遺跡トレンチ配置図(1:500)

10-7116 900
10-74489 900

10-7116 900
10-74489 900



1トレンチ

- I層 : 10YR3/4 : 暗褐色 : 珪石水田耕土、シルト、粗粒砂、細礫混じり、乾燥して粘性不明。
- II層 : 10YR3/2 : 暗褐色 : 表土下の水田耕層。
- III層 : 5YR3/2 : 暗赤褐色 : 細礫多。
- IV層 : 7.5YR2/2 : 暗褐色 : 花崗岩細礫多。
- V層 : 7.5YR2/2 : 黒褐色 : シルト・粗粒砂・細礫(石英顆粒φ~3mm程度)5%以上混じる。
- VI層 : 7.5YR2/2 : 黒褐色 : 細粒砂、細礫層。
- VII層 : 7.5YR2/3 : 暗褐色 : シルト・細粒砂・細礫3%以上混入白色粒目立つ。
- 埋層 : 10YR2/3 : 暗褐色 : 黒色シルト、III-IVより礫少量、粘性・しまりなし。
- IX層 : 5YR2/4 : 暗暗赤褐色 : シルト、粗粒砂、細礫、炭粒少量、上半分には炭分集積。
- X層 7.5YR4/4 : 褐色 : 粗粒砂、細礫、少量混入(3%以下)、しまり・粘性なし、細礫混ざる。

2トレンチ

- I層 : 10YR3/4 : 暗褐色 : 水田耕土、細粒砂・細礫混ざり、植物根多。
- II層 : 7.5YR2/3 : 灰褐色 : 粗粒砂。
- III層 : 7.5YR2/3 : 灰褐色 : シルト、細礫(φ~5mm)3%、砂粒少量混ざる。
- IV層 : 5YR3/2 : 暗褐色 : シルト、細礫(φ~7mm)5%、小礫(φ~3mm)1%。
- V層 : 5YR3/6 : 黒褐色 : シルト、炭粒は草層より多量に混入。
- VI層 : 10YR5/6 : 黄褐色 : 砂質シルト、粗粒砂、細礫多く含む、花崗岩巨礫多数、夾雑物IV層と同じ。

図10 八日市場遺跡調査全体図及び地層断面図 (1:100)

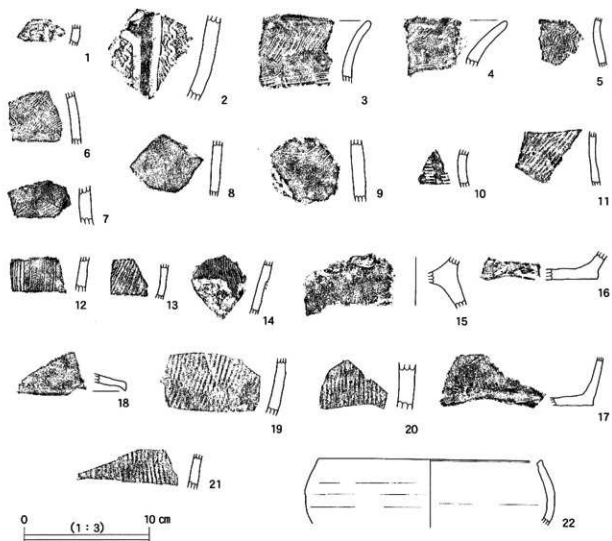


図11 八日市場遺跡出土土器 (1・2・11~16・18~21:1トレンチ東側, 3・4・6~9・17:1トレンチ西側, 5・10:SK11付近, 22:1トレンチ東側とSK8)

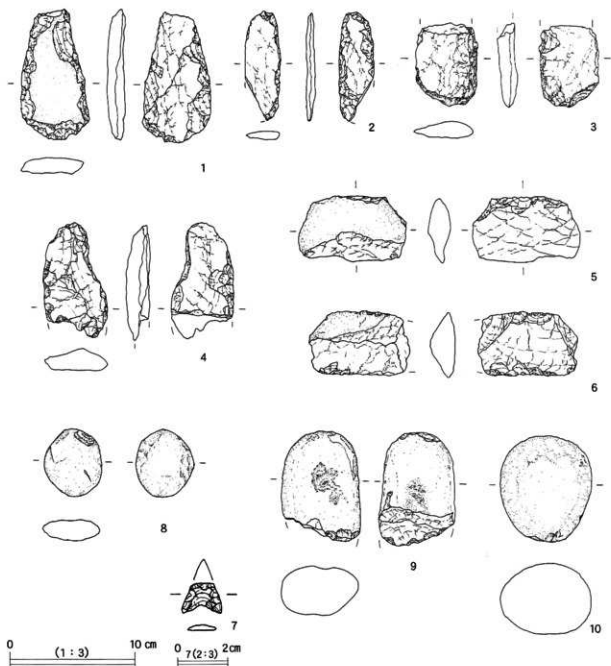


図12 八日市場遺跡出土石器 (1・2・5・8:1トレンチ東側、4・6・7・9:1トレンチ西側、3・10:SK13下)



検出状況（1トレンチ）



検出状況（2トレンチ）

土層断面（1トレンチ）



調査風景





調査風景



調査区全景

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいせいにしゅうごねんど ちょうないいせきはつかつちようさほうこくしよ						
書名	平成25年度町内遺跡発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編集者名	岩崎 徹						
編集機関	長野県高森町教育委員会						
所在地	〒399-3103 長野県下伊那郡高森町下市田2183番地1 ℡0265-35-8211						
発行年月日	2015年(平成27年) 3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	市町村コード 遺跡番号	世界測地系		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
			北緯	東経			
か な 鐘 鐺 原 B	高森町牛吹 1968-5	20403	35° 33' 39"	137° 51' 00"	平成25年 5月13日～ 6月5日	575	特養施設
		66					
てん 天 伯	高森町山吹 4782-1	20403	35° 34' 40"	137° 53' 47"	平成25年 6月11日	17	通信用鉄塔
		21					
や う 八 日 市 場	高森町山吹 4214-3 ほか	20403	35° 34' 25"	137° 53' 41"	平成26年 1月20日～ 27日	75	道路改良
		171					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鐘 鐺 原 B	集落跡	縄文時代	土坑 15 ピット 192	縄文土器・石器	
天 伯	散布地	縄文時代 近世	なし	縄文土器 陶磁器片(近世)	
八 日 市 場	集落跡	縄文時代 弥生時代 平安時代	土坑 20	縄文土器・弥生土器 須恵器(平安時代) 石器	

平成25年度町内遺跡発掘調査報告書

発 行 2015年3月
発行者 長野県下伊那郡高森町下市田2183-1
高森町教育委員会
印 刷 龍共印刷株式会社
